

## 北タイにおける児童・生徒の間食摂取率の3地域比較

○宇都宮由佳\* 益本仁雄\*\*

(\*大妻女大・院, \*\*大妻女大)

<目的> 近年タイでは、経済化、情報化の進展にともない、日常生活が伝統的なものから先進国に共通した生活へ変化している。しかし、都市部と農村部ではかなりの地域差がある。そこで、北タイの児童・生徒を対象に、間食に関する実態調査を行い、地域差を数値的に明らかにして、その要因を考察する。

<調査> 1997～98年、都市部(チェンマイ市)、農村部(サモエン村、ドイロー村)と、その中間的特徴を示すと思われる郊外の町(ファン町)の地域で、小学5年、中学2年、高校2年を対象に、アンケート、ヒヤリング調査を実施した。さらに、並行して文献調査、各地域の環境観察、現地関係機関でのデータ収集、ヒヤリング調査等を行った。

<結果と考察> 調査結果を家政学、統計学、社会学の方法論を用いて分析した。間食摂取率合計は、都市部 982.6 ポイント、郊外の町 750.2 ポイント、農村部 484.4 ポイントで大きな地域差があることが数値的に明らかとなった。さらに、各間食の摂取率を検定した結果、地域差には5つのパターンがあることが判明した。その要因は、各間食について、経済的要因、社会・文化的要因があり、それぞれが異なったウエイトで影響していると考えられる。地域差が顕著な間食と、ほとんど地域差の見られなかった間食を抽出し、諸要因の分析結果を発表する。